

2018年2月 インドの繊維加工用薬剤メーカーと業務提携契約を締結

当社グループの主力事業である繊維加工用薬剤事業において、インドの繊維加工用薬剤メーカーであるレジル社(本社:カルナータカ州バンガロール)と業務提携契約を締結しました。主な契約内容は、互いの自社製品をそれぞれの事業展開国で独占的に販売する権利を付与しあうというものです。

インドは、綿製品を中心とした世界的な繊維産業大国ですが、近年合成繊維製品の加工が伸びてきており、中国に次いで世界第2位の生産国となっています。当社グループは、インドにおいては従来、繊維加工用薬剤を個別対応にて輸出販売していましたが、中期経営計画における南西アジア地域での販売強化の方針に沿って、同地域における充実した販売網と高い技術力を有するレジル社と協業し事業展開を加速させることが最も効果的と判断し、この度の業務提携に至ったものです。

同社のインドにおけるネットワークを活用して市場拡大を行い、さらなるグローバル化を推進してまいります。



レジル社オーナーと江守社長

株主優待品発送のご案内(2018年春贈呈品)

当社では株主優待として、毎年12月31日時点で当社株式1,000株以上保有の株主様に一律で、デミヘアケア商品を贈呈してまいりましたが、2017年12月に同制度を拡充し、より多くの株主様にご利用しやすい優待内容といたしました。対象となる株主様に右記の優待品をお送りしますので、どうぞご使用ください。

- 100株以上保有 QUOカード1,000円分
- 1,000株以上保有 QUOカード1,000円分 + デミコスメティクスヘアケア商品

1,000株以上保有の株主様

100株以上保有の株主様

ヘアシーズンズ アロマシロップ
左:シャンプー 250ml ¥1,600(税抜)
右:ヘアトリートメント 240g ¥2,600(税抜)
※メーカー希望小売価格

会社概要 (2017年12月31日現在)

商号 日華化学株式会社
本社所在地 福井県福井市文京4丁目23-1
創立 1941年9月15日
資本金 28億9,854万5千円
従業員数 1,472名(連結) 598名(個別)
事業所 本社・NICCA イノベーションセンター
支店/東京・大阪・名古屋
営業所/仙台・広島・福岡
工場/福井(化粧品)
鯖江・関東・鹿島(化学品)
物流センター/鯖江
デミヘアサイエンススクエア/福井・東京・大阪・名古屋・福岡

国内関係会社 ●山田製薬株式会社 ●コスメラボ株式会社 ●イール株式会社
●大智化学産業株式会社 ●江守エンジニアリング株式会社
■ソルバイ日華株式会社

海外関係会社 ●日華化学研究(上海)有限公司
●DEMI(BEIJING) INTERNATIONAL TRADING CO.,LTD.
●香港日華化学有限公司 ●DEMI KOREA CO., LTD.
●ニッカ U.S.A., INC. ●ニッカ KOREA CO., LTD.
●PT.インドネシアニッカケミカルズ ●日華化学(中国)有限公司
●台湾日華化学工業股份有限公司 ●STC ニッカ CO., LTD.
●ニッカ VIETNAM CO., LTD. ●広州日華化学有限公司
●連結対象子会社 ■持分法適用関連会社

株主メモ

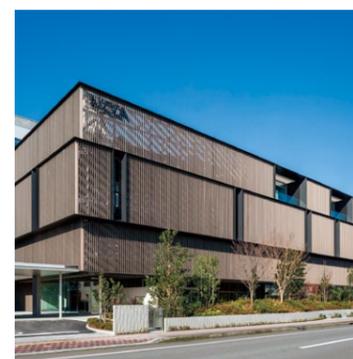
事業年度 毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会 毎年3月下旬
基準日 定時株主総会・期末配当 毎年12月31日
中間配当 毎年6月30日
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内1丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8-4
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先 フリーダイヤル 0120-782-031
取次事務は三井住友信託銀行の本店および全国各支店で行っております。
上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部
名古屋証券取引所 市場第一部
単元株式数 100株
証券コード 4463

【住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について】
株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座を開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行にお申し出ください。
【未払配当金の支払について】三井住友信託銀行にお申し出ください。

表紙写真・イラスト説明 ▶
①NICCA イノベーションセンター 外観
②研究職・製造職社員の新制服
③花はす公園(福井県南越前町)
④ニッカ ベトナム新工場竣工記念セレモニー
⑤NICCA イノベーションセンター 4階からの内観写真



GLOBE グローブ

連結売上高が過去最高を達成。
積極的な一手でイノベーションを。

株主の皆様へ



代表取締役社長

江守康昌

株主の皆様におかれましては、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2017年度(第104期)決算概況についてご報告いたします。

当連結会計期間(2017年1月1日~2017年12月31日)におけるわが国経済は、企業業績の持ち直しに加え、設備投資の堅調な推移、雇用者数の増加などを背景に、緩やかな回復基調で推移しました。また世界経済環境は、米国経済の景気回復に加え、アジア新興国のインフラ投資などが継続的に見込まれるなど、底堅く推移した一方、政治的、地政学的リスク、金融資本市場の変動、原油価格動向など、引き続き注視が必要な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは化学品事業において、日本国内での積極的な新規事業展開や、中国をはじめとする東アジア地域での事業拡大と新規開拓を行い、また化粧品事業においては、主力のデミコスメティクスでの商品リニューアルや、韓国をはじめとする東アジア地域での積極的な事業展開を進めました。その結果、経営基盤固めの3年間と位置づけた中期経営計画「INNOVATION19」初年度の当期間連結売上高は、前会計年度比9.7%増、営業利益は45.1%増となりました。

当社は、当期間に新しい研究開発拠点「NICCA イノベーションセンター」を開所いたしました。これもひとえに、株主の皆様をはじめ、お客様、お取引先様など、多くの皆様のご支援・ご協力の賜物と心より感謝申し上げます。世界中から多様な人が集まり、共に研究開発できるこの環境下で、新技術や新製品、さらには新規事業の創発に努めてまいります。

引き続き変わらぬご支援とご指導を賜り、末永くお付き合いいただきますようお願い申し上げます。

▶ 2017年12月期(第104期)決算概況

売上高 **484億9千3百万円** **9.7%増** ↗
 ■ 化学品国内・海外、大智化学産業好調 ■ 化粧品海外、山田製薬好調

営業利益 **21億1千6百万円** **45.1%増** ↗
 ■ 売上高増による増益

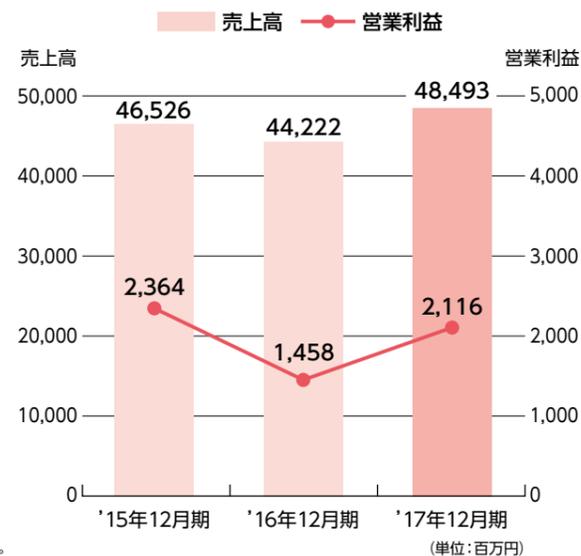
経常利益 **21億7千1百万円** **36.7%増** ↗
 ■ 営業利益増による増益

親会社株主に帰属する

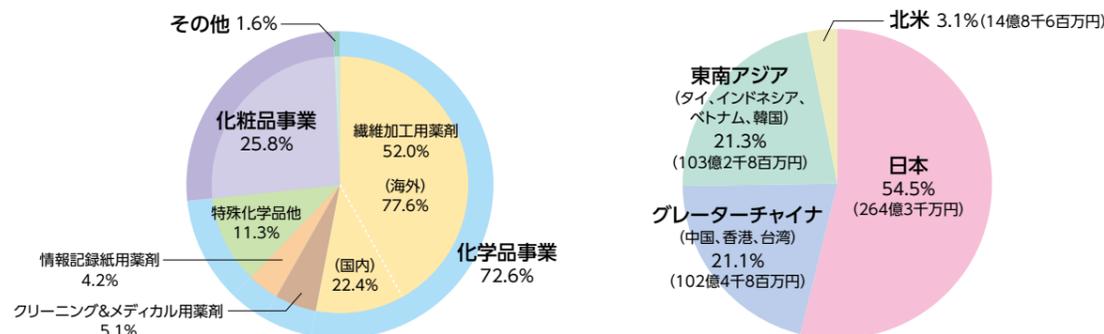
当期純利益 **13億8千8百万円** **300.5%増** ↗
 ■ 特別利益発生

※上記はすべて連結の情報です。※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。※%表示は前会計年度比です。

[売上高・営業利益の推移]



[地域別売上高比率]



化学品事業



繊維加工用薬剤

繊維加工の一連の工程(製織・製編から精練・漂白・染色・捺染・仕上まで)を網羅する多様な薬剤

情報記録紙用薬剤

インクジェットプリント用薬剤や、ラベル、チケット、タグ、レジスター紙等の高性能感熱紙に使用される顔色剤、増感剤



クリーニング&メディカル用薬剤

クリーニング店向けの薬剤、医療用器具の洗浄剤等

特殊化学品他

合成ゴムやプラスチック素材、電子材料加工時に使用される界面活性剤

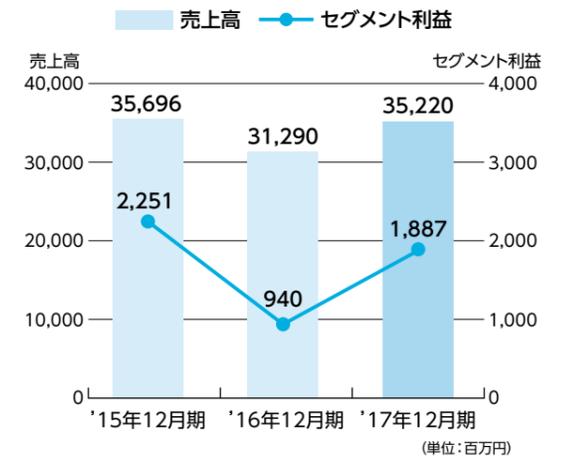
売上高 **352億2千万円** **12.6%増** ↗

セグメント利益 **18億8千7百万円** **100.7%増** ↗

- +
- +
- +
- +

主力である繊維加工用薬剤の新規案件獲得に加え、製紙用薬剤、非イオン活性剤、機能性樹脂製品の販売が堅調に推移したほか、大智化学産業における半導体ウェハー市場向け製品の販売、ニッカ コリアにおける環境対応型撥水剤事業や中国における新興市場の開拓等が好調であったことにより、売上高・セグメント利益ともに増加しました。

[売上高・セグメント利益の推移]



化粧品事業



美容室向け髪用化粧品

「デミ」「イーラル」ブランドで、シャンプー、トリートメント等のヘアケア剤を提供

ODM・OEM

髪用化粧品の相手先ブランド受託生産



一般通販

フェイシャル基礎化粧品ブランド「アンサーージュ」のインターネットによる通信販売

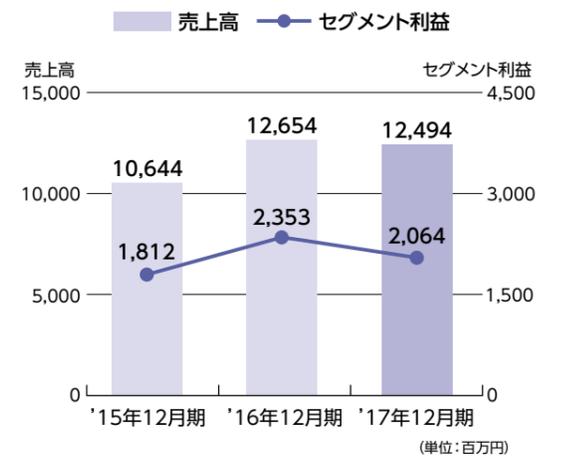
売上高 **124億9千4百万円** **1.3%減** ↘

セグメント利益 **20億6千4百万円** **12.3%減** ↘

- +
- +
-
-

山田製薬における化粧品製造受託事業や、デミ コリアの販売が引き続き好調でしたが、国内美容サロン業界全体の伸び悩みに伴い、国内サロン向け化粧品の販売が減少しました。デミ コスメティクスの主力ヘアケアブランドフルリリニューアルにより、売上高は回復傾向にあるものの、山田製薬における新工場稼働に伴う減価償却費の増加等もあり、売上高・セグメント利益は減少しました。

[売上高・セグメント利益の推移]



※上記はすべて連結の情報です。※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。※%表示は前会計年度比です。



え もり やす まさ
江守 康昌
●代表取締役社長

連結売上高が過去最高を達成。 積極的な一手でイノベーションを。

2017年12月期(第104期)は連結売上高が484億9,300万円となり、過去最高を達成しました。さらに、新たな研究開発拠点「NICCA イノベーションセンター」の竣工をはじめとして、2025年までの長期経営計画「INNOVATION25」を視野に入れたトピックの多い1年となりました。

代表取締役社長・江守康昌が第104期の業績を振り返るとともに、未来を見据えた2018年12月期(第105期)の取り組みについて語ります。

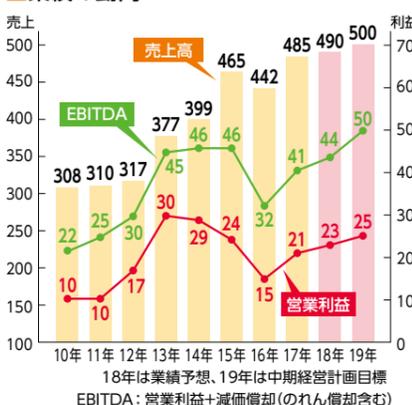
世界経済の好調が後押し

第104期は連結売上高が過去最高を記録し、前年同期に比べ、9.7%増を達成できました。売り上げだけでなく、営業利益は45.1%増、経常利益は36.7%増と、生産性向上やコスト削減の取り組みを通して、利益面でも一段ステップを上げることができたと実感しています。

堅調な業績を残すことができた背景には、化学品・化粧品事業ともに、好調な海外市場が挙げられます。為替レートは安定したまま推移していましたし、アメリカ、ヨーロッパ、アジアと世界全体が好景気の中にあり、そんな経済状況も当社の事業を後押ししてくれました。

半面、課題が明確になった1年でもありました。国内事業に逆風が吹き、化粧品事業全体では減収減益となっていますし、海外でも中国経済の緩やかな減速や人件費の

■業績の動向(単位:億円)



高騰などのリスクが顕在化しています。

さらに、2017年は長期経営計画の達成に向け、経営基盤を固めるための3年間と位置付けた中期経営計画「INNOVATION19」(※1)の初年度でもありました。そんな中、当社の抱える課題がはっきりと見え、新たな核となる事業が芽吹き始めています。そういった状況を踏まえ、未来を見据えた視点から言えば、事業ごとに好不調の波はあったものの、第104期は十分な手応えを感じられた年であり、今後も成長に向けて一層の努力を重ねていきたいと考えております。

化学品事業は国内外とも好調

第104期を事業ごとに具体的に見ていくと、売上高の約70%を占める化学品事業は、国内外ともに業績は好調でした。

国内では、環境や人体への安全性が懸念されるフッ素化合物を使用しない撥水剤(※2)や、人体に有害な物質を含む有機溶剤を使わない水系ウレタン樹脂(※3)など、当社の強みとなる環境にやさしい製品で新規案件を獲得することができました。半導体市場の活況も業績の伸びにつながっています。当社グループの大智化学産業(※4)は、半導体ウェハーの生産過程で用いる水系クラーント剤(※5)のトップメーカーであり、営業努力の成果も表れ、販売は好調でした。人工知能(AI)やロボティクスの進展に伴い、半導体市場はますます伸びていく分野であり、大智化学産業のこれからの成長にも大きな期待を寄せています。

海外では特に、韓国や中国、ベトナムで売り上げを伸ばすことができました。韓国ではニッカコリア(※6)で取り扱う環境対応型撥水剤事業が好調で、中国ではグループを挙げて取り組むビッグアカウント(※7)戦略が実を結び、繊維加工用薬剤市場で新規の顧客開拓につながりました。ただ、中国の繊維加工用薬剤市場における当社のシェアは3~4%程度に過ぎず、拡大できる余地はまだ残っています。繊維以外にも含めると

さらに魅力的な市場であり、今後も新規開拓に積極的に取り組んでまいります。そのためにもホームページのリニューアルをはじめとした広報戦略の強化や、営業一人ひとりの人間力の向上なども不可欠で、アジアだけではなく広く海外での競争に勝ち残っていくための力を身につけられるよう、さらに努めてまいります。

また、2017年10月にニッカベトナム(※8)の新工場を竣工したのも大きなトピックです。現在、経済発展が続くベトナムは、環太平洋パートナーシップ(TPP)協定の参加国でもあり、繊維加工用薬剤に関してもますます需要が高まると見込まれています。ニッカベトナム新工場では最大生産量を月産800トンへと倍増し、加えて、多くのお客様を迎えられるよう、ラボや商談スペースも備えた事務所棟の増改築も行いました。今後、東南アジアの重要拠点としての役割を高めてまいります。

化粧品事業は飛躍への踊り場

化粧品事業は、売上高1.3%減、セグメント利益12.3%減となり、その原因は国内市場が停滞したことでした。ただ、苦戦を強いられた理由は分かっています。それはヘアカラー剤において他社がトレンド色を中心にファッション系カラー剤を軒並み発売したこと、そして安価な他社製品のシェアが急拡大したことであり、国内の落ち込みはある程度、織り込み済みでもあります。

化粧品事業主力のデミコスメティクスは、トップレベルの技術力で美容室の皆様をサポートするためのブランドです。単なる価格競争に参加するつもりは毛頭ありません。現在はサロン業界の当社の品質に対する期待を裏切らない新たな製品でてこ入れを図っているところで、その一環として、2017年9月に主力のヘアケアブランド「フローディア」の全面リニューアルを行いました(詳細についてはP7をご覧ください)。ヘアカラー剤に関しても、今後、巻き返しを狙った一手を打っていきたくと考えております。

一方、山田製薬(※9)のODM(※10)事業は好調ですし、海外に目を転じるとデミコリア(※11)も引き続き業績に大きく貢献しています。

また、さらなる成長につなげていくため、2017年には、当社化粧品工場と山田製薬霞ヶ浦工場で化粧品製造に関する国際規格「ISO22716」をそろって取得いたしました。これにより、当社グループの化粧品製造拠点が生産・管理・保管・出荷などに関する品質・管理基準で国際的に信頼性の高いものとして認められ、高品質なデミブランドとして韓国市場だけでなく、中国などの海外市場に展開していく上で弾みとなっています。加えて、ISOの取得にあたって、山田製薬霞ヶ浦工場に本社化粧品工場と連動したシステム化と生産・管理手法の導入にも努め、グループ内での製造体制の標準化にもつなげました。

このように化粧品事業は、課題解決に向けた糸口はつかんでおり、未来に向けた種もまっています。減収減益になったとはいえ、第104期はステップアップしていくために必要な踊り場だったと捉えており、2018年には収益向上に向けた取り組みを本格化してまいります。

“第3の柱”確立へ

第104期を踏まえ、2018年12月期(第105期)では、新製品を軸とした化学品事業の進展、国内を中心とした化粧品事業の巻き返しを進めていくことになり、売上高は490億円、営業利益・経常利益はともに23億円を見込んでいます。

引き続き将来を見据えた戦略の実行にも力を注いでまいります。その一つが、鹿島工場(※12)2期工場の着工で、現在鯖江工場に担っている水系ウレタンなどの特殊樹脂の主要生産機能を鹿島工場に移し、合理化・効率化を推し進めていきます。また、南西アジア地域の事業展開をにらみ、中国に次いで世界第2位の合成繊維生産量であるイ



レジル社はインドの繊維加工産業の中心地バンガロールに本社を構えています

ンドの市場開拓もスタートします。参入にあたって、この2月にインド国内の繊維加工用薬剤メーカーとしてトップクラスのシェアを有するレジル社と業務提携契約を締結しました。充実した販売網と高い技術力を持つレジル社と協業し、1年以内に足場を固められるよう、スピード感を持って事業を展開してまいります。

並行して、化学品や化粧品に続く、日華化学“第3の柱”を確立するための取り組みも活発化させてまいります。そのための布石となるのが、昨年11月にオープンしたNICCA イノベーションセンターであり(詳細はP5をご覧ください)、来訪者に行うアンケートではほぼ100%の方から「社員の対応に大変満足」とのうれしいご意見をいただいています。私自身も、オープンな開発拠点の誕生で社員同士の会話が増えるなどの効果を実感しており、この流れをイノベーションへと結びつけていきたいと思っています。また、今年1月には組織改編で新たに未来創造室を立ち上げており、3月には大手商社の化学品分野で重責を担ってきた人材を新取締役に迎えます。これらはともに、新事業創出に向けた取り組みであり、目先の利益にとらわれない大きなビジョンを描いてまいります。

当社では、中期経営計画に掲げる「勝ち続ける強い企業集団」を目指した経営基盤を築くためにも、現状に満足することなく、着実な前進を続けていく所存です。株主の皆様におかれましては、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願いたします。

用語解説

- 【※1】INNOVATION19 長期経営計画の達成に向けて定めた中期経営計画。2017年~19年の3年間で、「勝ち続ける強い企業集団」を目指した経営基盤を固めることを目指しています。
- 【※2】撥水剤 繊維加工工程の中で、繊維に水分をはじく機能性を付与する加工薬剤。
- 【※3】水系ウレタン樹脂/人工皮革、塗料、接着剤などで使用されるウレタン樹脂は、溶剤系、水系に大別されますが、製造工程での作業や環境負荷を低減するために、水系品が強く要望されています。当社独自の技術による高性能な水系のウレタン樹脂は、特に人工皮革用途で圧倒的なシェアを誇っています。
- 【※4】大智化学産業 1966(昭和41)年創業(本社:東京都中央区)。2015年に当社が買収した100%子会社で、半導体ウェハーなどの加工用高溶解性クラーント剤(※5参照)のトップメーカーです。
- 【※5】クラーント剤/半導体ウェハーなどの生産加工で、切断や研磨の際の摩擦を抑える薬剤。以前は油系が主流でしたが、作業環境の悪化をもたらしたり、引火性などの問題点があったため、当社子会社の大智化学産業(※4参照)が約17年前に他社に先駆けて水系製品を開発しました。
- 【※6】ニッカコリア 1971(昭和46)年、韓国に設立した子会社で、撥水剤(※2参照)・撥油剤といった繊維加工用薬剤を生産・加工し世界市場に供給しています。
- 【※7】ビッグアカウント/当社がターゲットとしている超大手繊維加工製造業者。世界的に有名なファッション/スポーツアパレル企業からの受注が集中しており、大規模な工場で繊維製品を生産・加工し世界市場に供給しています。
- 【※8】ニッカベトナム 2004(平成16)年、ベトナムに設立した子会社で、繊維加工用薬剤をはじめ、金属、製紙、塗料用など幅広い界面活性剤の製造・販売等を手がけています。
- 【※9】山田製薬/1910(明治43)年創業(本社:東京都中央区)。1995年に当社が買収した100%子会社。ヘアケア、スキンケア、口腔ケア、消毒剤等の受託製造販売を手がけており、霞ヶ浦工場は当社グループ化粧品事業の第二工場としての役割も担っています。
- 【※10】ODM Original Design Manufacturingの略で、相手先のブランドで当社が製品設計から製造までを担当すること。
- 【※11】デミコリア 2012(平成24)年、韓国に設立した100%子会社。韓国の美容室市場でデミコスメティクス商品販売をしています。
- 【※12】鹿島工場/茨城県神栖市にあり、非イオン界面活性剤などの中核工場。生産能力の大幅な増強を目指しており、中国やアジア各国のグループ子会社などへの原料生産拠点としての役割も担っています。

▶ NICCA イノベーションセンター

研究開発の中核をなす新拠点が始動！ 活発な議論を促し、技術革新を目指す。

日華化学の新たな研究開発拠点となる「NICCA イノベーションセンター（以下、NIC(エヌアイシー)）」が2017年11月、本社敷地内に開所しました。NICは、2025年までの長期経営計画「INNOVATION25」で掲げた基本ビジョン「世界中のお客様から最も信頼されるイノベーション・カンパニー」の実現に向けて、新技術や新製品の開発、さらには将来の経営の基盤となる新規事業の創出を目的とした施設です。

ここではイノベーションを巻き起こす原動力として期待がかかるNICの概要を紹介するとともに、新拠点で目指している社員の働き方などについて、イノベーション推進本部長兼イノベーション企画部長の松田光夫に聞きました。

化学品と化粧品の研究員が集結

NICは、化学品事業と化粧品事業の研究開発を担う界面科学研究所と毛髪科学研究所を一つにした研究施設で、約170人が働いています。静かな環境で肅々と研究を進める従来型の施設とは違い、これまで事業別の棟にいた研究員を集結させることでシナジー効果を引き出すと同時に、世界中のビジネスパートナーや技術者にも活用を促し、最新の技術や知見、情報、アイデアを持ち寄り、バザールのようワイワイガヤガヤと賑やかな空間で活発に議論を交わす中

から、新技術や新製品を生み出すことを目指しています。

建物は地上4階建てで、延べ床面積は7,296平方メートル(サッカーピッチ1面に相当)。外観はアルミ製の羽板(ルーバー)を組み合わせ、福井の基幹産業である繊維の織り糸をイメージしたデザインとなっています。

1階はオープンスペースとなっており、エントランスを入ってすぐのところにある「オープンスクエア」(写真①)と呼ぶスペースでは、当社のウレタン技術でコーティングした福井県産の杉で作ったキューブ状の什器を使って、撥水や脱墨など当社の主な技術を紹介

しています。また、「ヘアサイエンススクエア」(写真②)にはシャンプー台など美容室と同じ機能を完備し、商品開発はもちろん、お客様である美容室との情報交換の場として利用しており、併設する講義室(約80名収容)ではセミナーや講習会も開催しています。

2階には毛髪科学研究所、3階には界面科学研究所のそれぞれのオフィススペースと実験室(写真③)があり、4階は役員室やプレゼンテーションルームとなっています。

社員のアイデアを設計に

天井は自然光を取り入れられる造りとし、

四季の日差しを考慮して角度を付けたスリット状の天井ルーバーが太陽光をバウンドさせることで、館内は常に間接光の柔らかな明るさであふれています。さらに大きな吹き抜け空間とガラス張りのスペースが多用されているため、とても開放的な雰囲気となっています(写真⑦)。

また壁や天井ルーバー内に、地下水と熱交換した液体を循環させることで室内温度を調整したり、この地特有の南北に吹く風を取り込む換気システムなど、福井の自然環境特性を活用した設備と省エネ設計によって、国土交通省のサステナブル建築物等先導事業(省CO₂先導型)(※1)の採択を受けています。

この特長あるNICの設計を担当したのは、建築家の小堀哲夫氏です。2017年に、ある機器メーカーの研究棟の設計で「日本建築学会賞」と「JIA日本建築大賞」を史上初めてダブル受賞した新進気鋭の建築家です。



さまざまなアイデアを出し合った社員参加型のワークショップ

また社内の建設プロジェクトとして、単に新しい建物を建てるだけでなく社員の意識や働き方の改革にもつなげようと、約一年半をかけて幾度となく社員参加型のワークショップを行いました。小堀氏も毎回参加し、さまざまな手法を通じて、新たな研究開発施設とそこでの働き方や仕事のやり方についてイメージを膨らませ、その結果生まれてきたいくつものアイデアが設計に盛り込まれました。

オープンな環境で自由な発想を

2階と3階のオフィススペースは、決まった席を持たずに毎日自由な席に座って仕事をするフリーアドレスとしました。デスクも1台ずつが可動式なので、組み合わせ次第で六角形や長方形など自在にレイアウトできます。部署や役職に関係なく席に座れるだけでなく、関わる業務やプロジェクトに応じて移



松田 光夫

●イノベーション推進本部長兼イノベーション企画部長

動できるので、コミュニケーションが活発化しやすい点がメリットです。

同時に、社員の誰もが自由に利用できるソファやイス、テーブル、大きなホワイトボードなどがあちこちに配置されており(写真④)、わざわざ招集しなくとも、気軽にミーティングすることが可能です。一方で、フロア内の少し離れた場所に設置された「籠り部屋」(写真⑤)は一人で集中して仕事を進めたいとき用のスペースとして大いに活用されています。

「オープンから約4カ月経ちましたが、コミュニケーションの量と質が格段に高まったと実感しています。今までも化学品部門と化粧品部門が合同で研究成果を発表する機会を3カ月に1度設けてきましたが、NICでは思い立ったらすぐに顔を合わせて話し合える環境が整いました。オープンに議論を交わすことが、今後のイノベーション創出に役立つと思います」(松田)。

また開所と同時に、活発化したコミュニケーションから生まれきた技術や製品の種をスピーディーに開花させるため、「イノベーション推進部門」を新設しました。月に1度、

同部門長を兼任する江守社長をはじめ、NIC推進本部長・副本部長、化学品と化粧品の各研究責任者が参加する部門会議を開催。社内だけでなく、外部の企業や団体などとの、連携して取り組むべき研究テーマの選定などを話し合っています。

オープン・イノベーションに期待

3つの研究室で構成される1階の「T(トライアル)スクエア」には、国内外のビジネスパートナーや技術者、研究者と共に試作品を作り、評価、議論、改良を繰り返し、製品として完成させていくための特別実験室や精密分析室を設けています。同じく1階の「ガーデン スクエア」(写真⑥)はカフェテリアを兼ねた多目的スペースで、およそ2週間に一度のペースで、外部から多岐にわたる分野の専門家を招き、最新の知見を得るための勉強会やセミナーを開催しています。

オープン以降、ビジネスパートナーをはじめ、産官学の各分野から2,500名を超える方が見学に訪れ(2月末時点)、「ぜひ日華化学と組んで研究開発をしてみたい」といった声も多くいただいております。領域を超えた研究の交流や技術の共同開発といったオープン・イノベーションが期待できます。

「まだ完成形とは言えませんが、社内外から多くの人が集まって活発に議論を交わすという仕事のやり方をしっかりと実行できれば、おのずとイノベーションにつながると考えています」(松田)。

人と人の界面活性剤となって、コミュニケーションを活発化させるNICから、どのような成果が生まれてくるのか。今後にご期待ください。

制服をリニューアル より働きやすく、快適に。

NICの開所に合わせ、研究職や製造職の社員が着用する制服を一新しました。スタイリッシュなデザインで、作業性を考慮して袖は短めにし、ストレッチ生地で動きやすく、かつ静電気を防止する導電糸入りで実験時の安全性にも配慮しています。リニューアルにあたっては社員による「制服委員会」を設置し、要望を多く取り入れられました。



- ①日華化学の技術を展示している「オープン スクエア」
- ②化粧品の商品開発や教育の場「ヘアサイエンス スクエア」
- ③ガラスパーテーションで明るく見通しの良い実験室
- ④打合せや休憩など、自由に使える椅子やソファ
- ⑤集中したい時にぴったりの「籠り部屋」
- ⑥カフェテリア兼多目的スペースの「ガーデン スクエア」
- ⑦4階天井からの自然光の下に広がる吹き抜け空間。2・3階のオフィススペースでは、営業や研究担当が自由に座っている

(※1)サステナブル建築物等先導事業(省CO₂先導型)/省CO₂対策に取り組む先導的な住宅・建築プロジェクトに対して、補助を行う国の事業。NICは2015年度の公募にて採択を受けました。



新発見のダメージ・メラニンクラックを 選択的に補修する新技術を開発。

美容室向け頭髮化粧品事業のデミ コスメティクスでは、2017年9月に、主力ヘアケアブランド「FLOWDIA(フローディア)」(特許出願中)を全面リニューアルいたしました。



従来知られていなかった毛髪ダメージを発見し、それを選択的に補修する新技術を開発して商品化(サロン内ケア用11アイテム、ホームケア用11アイテム)。ベタつきのない髪本来の艶髪を実現できると、高い評価をいただいています。

今回の商品化にあたって、研究面で中心的な役割を果たした二人に話を聞きました。



デミ コスメティクス カンパニー 化粧品研究部

●基礎研究担当
基礎研究グループ 主任

天谷 美奈子

●商品開発担当
商品開発第1グループ サブリーダー

藤井 義宣

毛髪を縦断面で解析

新フローディアの開発にあたっては、髪本来の自然な艶感や、サラサラとした指抜けを実現することに注力しました。なぜなら、従来のヘアケア商品は補修成分がダメージ箇所だけでなく、髪全体に過剰に付着してしまうことでベタベタとした状態になり、重さや硬さを感じやすい不自然な質感になってしまうことが多かったからです。

ダメージのある部分だけを選択的に補修する——。そんな商品開発を目指す過程の中で、私たちは毛髪にある色素(メラニン)に着目しました。メラニンがヘアカラーや紫外線によるダメージを受け萎縮することは知られていましたが、その周辺も大きな空隙(すきま)ができていたことを発見したのです。それまでは毛髪を解析する場合、横断面で解析するのが一般的で、メラニンは小さな粒

状で点在すると考えられていましたが、当社の新たな試みで縦断面からも解析してみたところメラニンは縦にいくつも連なった構造で、私たちが認知していたものより約10倍もの大きさに達していたのです。これだけ大きな組織に空隙があれば、毛髪はうねりやすく、光が散乱するため艶も失われてしまいます。また、縦方向に裂けやすくなり、枝毛の原因にもなるなど、ケアせずに放置することでさらなるダメージを引き起こしてしまいます。

そこで当社では、この空隙を「メラニンクラック」と名付け、この部分に特化したケア商品の開発に取り組みました。

バルーン状に定着して補修

この深刻な毛髪ダメージを招くメラニンクラックを補修するために、私たちは試行錯誤を繰り返し、ダメージ部分だけに選択的に補修する新たなケア技術「バルネイドシステム



美容室専売のホームケア用のシャンプー&トリートメントは、髪質に合わせて4タイプ。洗い流さないトリートメントは3タイプ

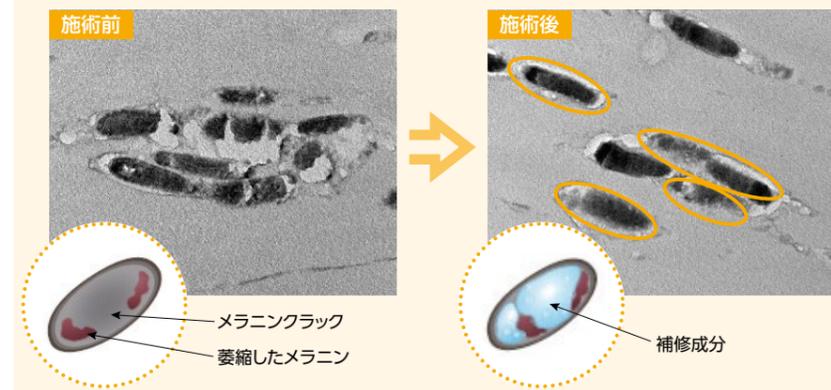
ム」を開発しました。「バルネイドシステム」は、メラニンクラックに蓄積しやすいカルシウムをターゲットにすることで、補修成分がダメージ部分だけに選択的に反応し補修します。その際、補修成分が流れ出ないよう水風船のようにバルーン状で包んで定着させることで、高い補修効果が期待できます。

40代女性をモデルにした実験では、ブリーチ後の毛髪でメラニン組織に占めるメラニンクラックの比率が24%見られましたが、「バルネイドシステム」によるトリートメント施術を1回行うと、それだけで7%にまで低下しました。これはダメージの少ない生えたばかりの部分の毛髪(メラニンクラックの比率13%)よりも少ない数値となります。

実際、新フローディアを体験された方々からも高い評価をいただいております。これまでに全国3,000店以上のサロン様にお使いいただいております。さらに、今年6月にはフローディアの新ラインも発売する予定で、最高峰のヘアケアブランドとして今後もお客様の求める商品開発に努めていきたいと思っております。

バルネイドシステム

メラニン(黒く見える箇所)の周辺にできた空隙(メラニンクラック)をバルーン状に包み込み、選択的に補修する「バルネイドシステム」



生地表面に「ハスの葉」構造を再現。 フッ素系撥水剤と同等の撥水性を付与。

繊維業界では2000年代初頭から、特定のフッ素化合物に関して環境等への残留性が問題視されるようになり、多くの世界的なアパレル・スポーツ用品メーカーが



2020年までに、製造工程の中からフッ素化合物の使用をゼロにする目標を掲げています。当社はこうした動きが起きる前から、フッ素化合物を使わない「フッ素フリー系撥水剤」の研究開発を続けてきましたが、その中でハスの葉の構造をヒントに誕生したのが「ネオシード」です。需要が高まる中で、さらなる開発や販促を担う二人に話を聞きました。



界面科学研究所 商品開発研究部

●開発担当
繊維化学品開発担当部長

竹内 齊久

化学品部門 化学品戦略企画室

●プロモーション担当

島田 紗緒里

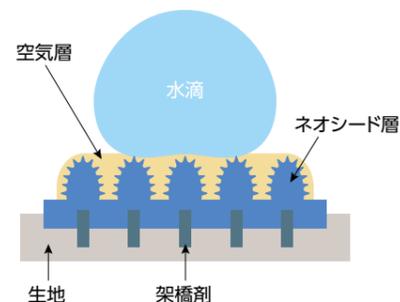
ハスの葉の構造をヒントに開発

ハスの葉は一見すると滑らかですが、よく見ると表面は微細な突起で覆われ、突起の表面にもナノサイズの凹凸が存在します。これらの突起や凹凸のすき間に空気が入り込むため、水はその「空気層」によってはじかれるのです。

この原理を応用したのが「ネオシード」で、本格的に開発をスタートしたのは2004年のことです。優れた撥水性能を持つフッ素に替わる化学的イノベーションと、ハスの葉の構造をヒントとした物理的イノベーションを融合。何度も改良を重ねて性能を高め、近年、フッ素系撥水剤に匹敵する撥水レベルにまで到達しました。また、撥水加工後の生地物性(風合い・縫目滑脱抵抗性(※1)等)への影響も十分に配慮した製品設計を行ったことで、スポーツ・カジュアルアパレルを中心に広い分野での展開が期待されています。

こうした開発の歩みの中で2012年に取得した特許権は、2017年の近畿地方発明表

ハスの葉構造の再現イメージ図



彰(公益社団法人発明協会主催)において、最高賞である文部科学大臣賞を受賞しました。これは、世界的なニーズに対応した環境配慮型製品である点や、省エネルギーにも寄与している点が評価されたものです。

平成29年度 近畿地方発明表彰



表彰を受けた江守社長と研究開発担当者

ハングタグでブランド力強化

今年1月にはドイツで開かれた世界最大級のスポーツ・アウトドア・アパレル用品の業界向け国際展示会「ISPOミュンヘン2018」に4年連続で出展し、「ネオシード」の最新技術をアピールしました。フッ素フリー系撥水剤に対する業界の注目度は高く、現在、アパレルメーカーなどとの間でアウトドアジャケットをはじめ、具体的なアイテムの商談が進んでいます。

今後は「ネオシード」単体での優れた撥水性はもちろん、当社では精練や染色など繊維の加工工程で使用される薬剤も揃えていますので、これらと組み合わせることによって、さらに撥水性を向上できる点をPRして受注増につなげ、2020年にはグローバル

で20億円の売り上げを目指します。

また、販売促進策の一環として、「ネオシード」で撥水加工された生地を用いたアパレル製品に付けられるハングタグを制作しました。今後、「ネオシード」を使用するアパレル・スポーツ用品メーカーに提案し、環境に優しい商品を選びたいと考えている消費者への認知度アップを目指していきます。

これからもさらに技術をブラッシュアップして撥水性や風合い、各種性能を総合的に向上させていくと同時に販促活動にも注力し、「ネオシード」を誰もが知っているようなブランドに育てていきたいと考えています。



ハスの花の形をイメージした「ネオシード」のハングタグ

「花はす公園」に寄付

「ネオシード」を開発するにあたって着想を得たハスの葉への感謝を込め、花ハス生産量日本一を誇る福井県南越前町にある「花はす公園」に「ネオシード」の売り上げの一部を寄付いたしました。今後も継続的に寄付を行う予定で、公園の保全に貢献してまいります。



(※1)縫目滑脱抵抗性/力を入れて生地を引っ張った際の縫目の開き(すべり)を防ぐ強度

連結貸借対照表

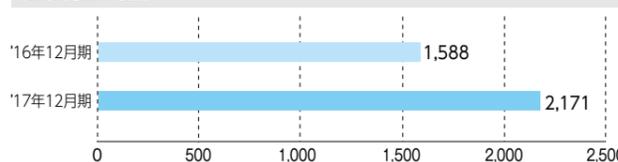
科目	当連結会計年度 (2017年12月31日現在)		増減
	前連結会計年度 (2016年12月31日現在)	増減	
(資産の部)			
流動資産	28,333	26,448	1,884
現金及び預金	7,987	5,882	
受取手形及び売掛金	10,774	11,029	
商品及び製品	3,634	3,977	
仕掛品	664	717	
原材料及び貯蔵品	2,937	3,089	
その他	2,348	1,794	
貸倒引当金	△13	△42	
固定資産	26,761	24,131	2,629
有形固定資産	22,758	19,897	2,861
建物及び構築物(純額)	13,384	9,518	
機械装置及び運搬具(純額)	2,470	2,214	
土地	6,153	6,231	
その他(純額)	749	1,932	
無形固定資産	546	733	△186
投資その他の資産	3,456	3,500	△44
資産合計	55,094	50,580	4,514

科目	当連結会計年度 (2017年12月31日現在)		増減
	前連結会計年度 (2016年12月31日現在)	増減	
(負債の部)			
流動負債	28,102	24,614	3,488
支払手形及び買掛金	6,110	5,310	
短期借入金	17,680	15,264	
未払法人税等	262	279	
賞与引当金	646	631	
厚生年金基金解散損失引当金	494	-	
その他	2,906	3,128	
固定負債	5,377	6,549	△1,171
長期借入金	1,495	2,135	
退職給付に係る負債	2,939	3,086	
厚生年金基金解散損失引当金	-	494	
株式報酬引当金	40	-	
その他	903	832	
負債合計	33,480	31,163	2,317
(純資産の部)			
株主資本	17,711	16,606	1,104
その他包括利益累計額	1,211	251	959
非支配株主持分	2,691	2,558	132
純資産合計	21,614	19,417	2,196
負債純資産合計	55,094	50,580	4,514

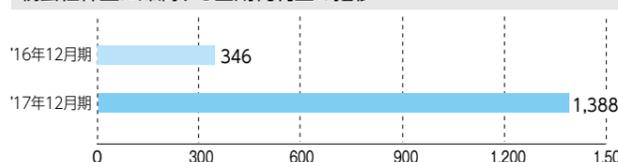
連結損益計算書

科目	当連結会計期間 (2017年1月1日～ 2017年12月31日)		増減
	前連結会計期間 (2016年1月1日～ 2016年12月31日)	増減	
売上高	48,493	44,222	4,270
売上原価	32,870	29,490	3,380
売上総利益	15,622	14,732	890
販管費及び一般管理費	13,506	13,274	232
営業利益	2,116	1,458	658
営業外収益合計	394	476	△81
営業外費用合計	338	345	△6
経常利益	2,171	1,588	583
特別利益合計	184	3	181
特別損失合計	69	546	△477
税金等調整前当期純利益	2,287	1,045	1,241
法人税等合計	695	499	195
当期純利益	1,592	545	1,046
非支配株主に帰属する当期純利益	203	198	4
親会社株主に帰属する当期純利益	1,388	346	1,041

経常利益の推移



親会社株主に帰属する当期純利益の推移



1株当たり当期純利益の推移



※売上高と営業利益の推移につきましては、P1に記載しております。

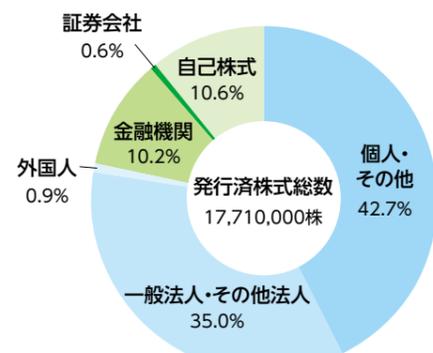
連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

区分	当連結会計期間 (2017年1月1日～ 2017年12月31日)		増減
	前連結会計期間 (2016年1月1日～ 2016年12月31日)	増減	
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,979	1,235	3,743
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,185	△4,252	67
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,105	1,636	△531
現金及び現金同等物の期末残高	7,987	5,834	2,152

株式の状況

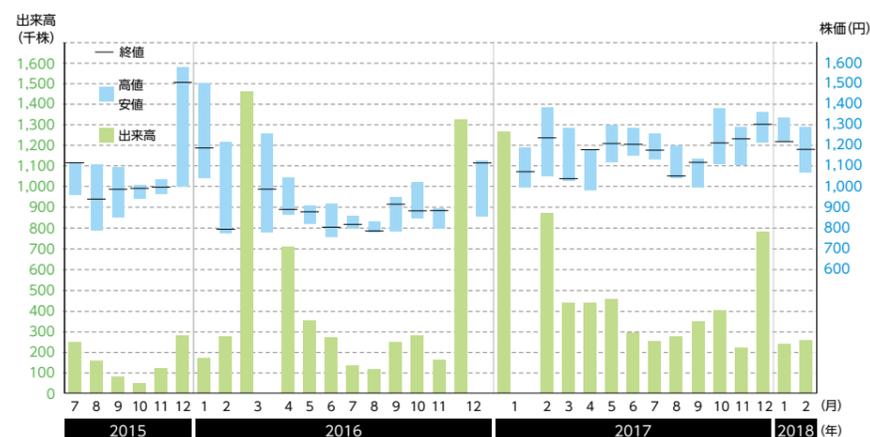
●株主数：3,564名

●所有者別分布状況



※発行可能株式数：44,932,000株
2017年12月31日現在

●株価の推移



※2015年12月25日以降の出来高は、東証と名証を合わせた情報を掲載しています。
なお、終値は東証の終値を掲載しています。

2017年8月 当社グループの化粧品2工場において「ISO22716」(※1)の認証取得

当社化粧品工場(福井市/本社敷地内)が化粧品の製造管理及び品質管理に関する国際規格「ISO22716」の認証を取得いたしました。また、12月には当社子会社である山田製薬株式会社の霞ヶ浦工場も続けて同認証を取得いたしました(認証機関:SGSジャパン株式会社(※2))。

当社は1982(昭和57)年より美容室向け髪用化粧品の製造販売を始め、現化粧品工場は2002(平成14)年より稼働を開始。また山田製薬霞ヶ浦工場は1977(昭和52)年より化粧品や医薬部外品の受託製造(ODM/OEM)を行っており、2016年に新工場の稼働を開始いたしました。

この認証取得により、両工場での化粧品の生産・管理・保管および出荷の品質基準と管理基準が、国際的に信頼性の高いものとして認められ、国内外への更なる展開において重要な基盤が整った事になります。今後も安全・安心への対応はもちろん、多様化するお客様のニーズにお応えするべく、国際基準の高品質で安定した製品提供に努めてまいります。

※1 ISO22716化粧品業界向けの優良製造規範「化粧品GMP(Good Manufacturing Practice)」のガイドラインとして、2007年に発行されたもの。
※2 SGSジャパン(株)各産業分野における世界最大級の検査及び認証会社であるSGS社(本社/スイス)の日本法人。



化粧品工場



山田製薬霞ヶ浦工場

2017年10月 ニッカ ベトナムの新工場建設および事務所棟を増改築

近年、ベトナムでは繊維産業において外国からの大型投資が増加しており、繊維加工用薬剤においても今後ますますの市場拡大が予測されます。このような状況を踏まえ、繊維加工用薬剤の製造・販売を手がけている当社子会社のニッカ ベトナム(2004年設立)は、さらなる販売量拡大の計画に対応するために新工場を建設し、併せて事務所棟を増改築を行いました。最大生産量は400t/月から2倍の800t/月に、倉庫の収容容量も500tから800tに拡大。事務所棟では研究所の延床面積を約2倍に拡張、また従来のエントランスと事務所スペースの一部はウェルカムスクエア(商談スペースを兼ねたショールーム)に改築し、事業や製品を紹介するディスプレイモニターを設置しました。新たな設備を最大限に活用し、事業拡大を目指すと共に、ニッカ ベトナムに訪れるお客様に対し、当社グループの技術力とグローバルネットワークをアピールしてまいります。



新工場



新設したウェルカムスクエア

2017年10月 唯一の日系企業として「パイオニア企業賞」を受賞

中国・上海で開催された「第5回ZDHC-CNTAC有害化学物質管理&持続可能的生産会議」(ZDHC(※3)、CNTAC(※4)共催)において、当社グループが「パイオニア企業賞」を唯一の日系企業として受賞いたしました。同賞は2017年に設けられ、欧米では認知度が高いZDHCが運営するThe ZDHC Gateway Chemical Module(※5)(ゲートウェイ ケミカル モジュール)にいち早く対応した世界のトップ10企業を称えるものです。

授賞式では、中国繊維業界を中心に世界の大手アパレルブランド、繊維加工工場、繊維加工用薬剤メーカーなどの代表およそ500名が参加された中で、当社グループ社員が表彰を受け、当社の環境対応力のアピールにつながりました。

今後も持続可能な未来の実現に向けて、世界的にニーズが高まる環境配慮型製品に対応する世界No.1の繊維加工用薬剤メーカーを目指してまいります。

※3 ZDHC(Zero Discharge of Hazardous Chemicals):2011年に発足。大手アパレルブランド等約90社が加盟する有害化学物質排出ゼログループ。
※4 CNTAC(The China National Textile and Apparel Council):中国紡織工業連合会
※5 The ZDHC Gateway Chemical Module:世界の化学メーカーが製造する繊維加工用薬剤の情報検索と、安全性や環境配慮などの基準が確認できるシステム。



授賞式の様子



2016年の功績が今回の受賞に繋がりました

2017年11月 本社の「アルミ付廃棄物の試験回収協力活動」が表彰されました

当社では本社勤務社員の協力により、北陸グリーンエネルギー研究会(※6)が推進する「アルミ付廃棄物の回収」を行っており、同研究会の総会において、その活動を5年以上継続している法人として初めて表彰されました。

同研究会の水素利用部会では、回収したアルミ系廃棄物からのアルミ高効率回収技術と北陸地方に適した水素エネルギー利用システムの開発を目的として、アルミの有効利用を啓発しています。この主旨に当社も賛同し、2012年より本社社員の協力にてアルミコーティングされた紙パックや食品包装、菓子袋などの回収を行ってきました。また、水素を発生させた後の水酸化アルミの再利用の検討にも取り組みました。

当社は今後も引き続き、環境に配慮した製品・技術の開発と共に、廃棄物の減量化・再資源化など、積極的に環境負荷低減に取り組んでまいります。

※6 北陸グリーンエネルギー研究会:2009年発足の一般社団法人。再生可能エネルギーによる「循環型社会システム」の北陸モデルの実現を目的として北陸三県の28企業と官公庁等12団体が参画。所在地は富山県高岡市。



総会での授賞式
法人としては初の表彰となりました